

山中 俊治

東京大学生産技術研究所 機械・生体系部門 教授

2016年4月22日(金)

16:00~17:30 C棟1F オーディトリウム

「人と融け合うデザイン

～マシンと有機体のエレガントな共鳴」



今日、デザインは、単なるスタイリングではなく人と人工物とのあらゆる関わりを計画し、統合的に幸福な体験を実現するための技術になりました。デザインの対象は、多くの場合人工物ですが、実際問題として私たちはいつも人間のことについて考えているように思います。この講演では特に人工物と身体の間、ロボットなどの人工物が「生きているように見える」とはどういうことか、さらには最近始めたばかりのバイオエンジニアリングにおけるデザインの試みなどについて、事例をあげながら話してみたいと思います。

山中俊治先生の略歴

山中先生は、1982年東京大学工学部生産機械工学科卒業後、日産自動車デザインセンター勤務されました。1987年にフリーデザイナーとして独立、腕時計から鉄道車両に至る幅広い工業製品をデザインする一方、1991年より94年まで東京大学助教授を務められた後、1994年にLeading Edge Designを設立され、デザイナーであると同時に技術者として、ロボティクスや通信技術など、これまでデザイナーが関わってこなかった領域の研究にも参画されています。2008年より12年慶應義塾大学政策・メディア研究科教授、2013年4月より東京大学教授。大学では、義足や感覚に訴えるロボットなど、人との新しい関係を探求されています(HPより)。

問い合わせ:

松崎 文雄

非対称細胞分裂研究チーム

fumio@cdb.riken.jp

Tel:078-306-3216

(ext:1632)